

海老名災害ボランティアネットワークだより



令和3年7月1日発行 第37号

発行 海老名災害ボランティアネットワーク（略称：海老名災ボラ）
事務局 海老名市めぐみ町6-3、福祉会館・海老名市社会福祉協議会気付
ホームページアドレス <http://www.ebina-saibora.net/>

風水害・地震などに対する日頃の「備え」と、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を

2021年4月以降、新型コロナウイルス感染症は全国に急拡大し、各地で医療機関のひっ迫状況が続いています。ワクチン接種が進展していますが、多くの国民に行き渡るまでには、まだ時間がかかるとみられます。

こうした状況の中で、風水害や地震などの自然災害が私たちの生活する地域で発生した場合、避難所等に人が集まることから、「密閉された狭い空間に」、「多数の人々が密集し」、「密接して会話が行われる」危険性があります。とりわけ、感染力の強い変異株ウイルスへの置き換わりが心配されている今日、避難所等での新型コロナウイルス感染症対策の徹底が必要になっています。

これまで蓄積してきた風水害や地震に対する日頃の「備え」の中に、新型コロナウイルス感染症対策を組み込んでおく必要があります。

《 集中豪雨・大型台風に対する「備え」と、新型コロナウイルス感染症対策について 》

2019年台風19号で相模川流域の海老名市民（約4900人）が避難所（28か所）に集まった大きな雨雲を伴った台風19号が、2019年10月12日（土）伊豆半島に上陸し、21時頃に海老名市付近を通過した。神奈川県西部で記録的な豪雨となり、城山ダムの緊急放流が実施され、相模川流域の海老名市民（約5千人）がコミセン等11館と小中学校17校に避難した。相模川の氾濫などは避けられた。神奈川県内でも相模原市や川崎市で土砂崩れや河川の氾濫が発生し大きな被害が出た。

2019年10月は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が始まる以前であり、感染症対策は必要なかった。

今後は、新型コロナウイルス感染症対策も考えた上での避難行動が必要となっている！

- ① 自分の地域でどのような危険があるか、市の「ハザードマップ」で確認しておく。
- ② 自宅での避難に備え、水・食料の備蓄とともに、マスク・消毒液・体温計も用意する。
- ③ 市が発表する警戒レベルに注意し、早めに避難する！「水平避難」か「垂直避難」（自宅）
警戒レベル4：避難指示、警戒レベル3：「高齢者等避難（⇐避難準備・高齢者等避難開始）」
- ④ 避難先（水平避難）として、市が指定する避難所だけでなく、安全な場所にある知人宅・民間施設なども事前に検討しておく。感染症対策に必要な「マスク・消毒液・体温計」なども持参する。避難先では、新型コロナウイルス感染症対策として「密閉・密集・密接」を避ける行動を確実に実行する。

○地震災害でも、日頃の備蓄品の中に、マスク・消毒液・体温計などを加えるとともに、避難所等に避難する場合には、新型コロナウイルス感染症対策として「密閉・密集・密接」を避ける行動が必要です。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で「災害ボランティアセンターの運営」を検討

2020年に入ってから九州地方での豪雨災害で、コロナ感染症の拡大を防ぎながら、災害救援ボランティアセンターが運営されました。そうした経験に学びながら、海老名が被災地になった場合、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぎながら、どのように災害ボランティアセンターを運営するかについて、市社会福祉協議会を中軸に、海老名災害ボラ、市危機管理課も協力して、検討を進めています。

コロナ禍で、海老名災ボラ総会を「書面議決方式」で開催：2021年5月

海老名災ボラの定期総会は、新型コロナウイルス感染症拡大のために、2020年度の定期総会に続き、2021年5月に「書面議決」方式で開催しました。4月26日に総会議案書と書面議決書を会員全員に送付（メール、FAX、郵送）し、書面議決書を会員から回収（4月26日～5月15日締め切り）、会員総数47人のうち回収数38人（回収率80.1%）で、全ての議案（2020年度事業報告、2020年度収支決算報告、2021年度役員、2021年度事業計画、2021年度予算）を可決しました。

2021年度役員：60歳代を中心にした役員体制へ、世代交代を実現しました

代表：石橋友晴、 副代表：星野隆一郎、三宅なが子
会計：松井俊輔、小澤昌平、 会計監査：永山八郎、嶋原やわた

2021年度事業：コロナ禍でのボランティア活動継続：感染防止対策とオンライン化の推進

海老名災ボラでは、以前からパソコンを中心にしたメーリングリストを作成していました。2020年度にスマートフォンを中心としたネットワーク（lineグループ）を作成し、さらに2021年1月からは、Zoomを使ってのオンライン定例会（月例会）を実施しています。こうした活動によって、コロナ感染症拡大を防ぎながら、会員相互の情報共有を進めています。

海老名災害ボランティアネットワーク 会員募集中！

海老名災ボラでは、次の3本の柱を軸に、様々な活動を行っています。

- ①市民の災害対応力（「自助」・「共助」）を高める活動
- ②海老名が被災地となった時に「災害救援ボランティア・コーディネーター」としての活動、
- ③大規模災害が発生した場合に被災地被災者支援のボランティア活動への参加



問い合わせ：海老名災ボラ代表（石橋友晴）まで

メールアドレス：ti.226.gejimon@gmail.com

スマートフォン：090-6795-3244

申込書：海老名災ボラのホームページの中にあります。

申込書提出先：海老名災ボラ代表（石橋友晴）まで